



スペイン漆喰の外壁はカビや苔に強いアルカリ性で、メンテナンスコストを抑えることができる。「壁についた汚れも、いつの間にか消えた」とお客様から聞きました！



ハウスランド社の床材のおすすめ標準仕様は厚さ30ミリの九州産の杉材。浮遊り加工が施された集垢材は肌触りがやわらかく温もりが感じられる



「和の家 吉木」では火を見ながら寛く時間を提案。薪ストーブの間と隣接して囲炉裏のあるオーデイオスペースが広がる



ハウスランド社の展示場

家づくりの
展示場
訪問
interview with model house

薪ストーブのガラスやデザインに注目しがちですが、施工のポイントが重要。二重壁突にする事で煤がたまりにくくなり、メンテナンスの手間やコストが省けるのだ



建具はすべて職人による手作り。組子が縦に連続する縦割障子は古風に、椅子の幅を広くするとモダンな印象に。つくりたいイメージによって使い分け



「ファイアフロント」。遠赤外線効果で体の芯から温まるうえ、エアコン暖房のように乾燥もしない。何よりも、炎を見ると癒やされますよね。天板の上ではお湯を沸かしたり煮物をしたり、熾火状態で薪用プレートを使えば、ジザを焼くこともできます。薪も自分で調達して、割って、乾かして、それを翌年の冬に使うフレックスを楽しんでみてほしいですね。もはや都会では焚き火などできませんが、これがあればキャンプに行かなくても、自宅で自然に親しむことができます。薪ストーブはノルウェーやオランダなどヨーロッパ製のものも人気。家の広さやデザインのお好みに合わせて選べますが、20畳くらいの小さな空間でも使えるものもあります」(ハウスランド社代表)

表・三信比古さん。

火のある暮らしを楽しむなら、囲炉裏という選択もあり。ここにあっては木の無垢板でこしらえた本格囲炉裏ですが、足が悪い人でも座りやすいように、当社ではテーブルタイプの置き囲炉裏もつくることがあります。

古民家再生モデル住宅 和の家『吉木』

火で暖を取り、癒やされる古民家で楽しむ冬の暮らし

筑紫野市の山間にある古民家モデルハウスには薪ストーブや囲炉裏を暮らしに取り入れるユニークなアイデアがちりばめられています。家にもりつつ非日常を楽しめる冬ならではの古民家の魅力をご紹介します。



薪ストーブや囲炉裏で暮らしに「火」を取り入れる
寒くなれば、エアコンをオンにするだけ、もはや、冬に備えて障子を貼り替え、暖を取る火の用心した暮らしは遠い過去。冬支度という言葉も死語かもしれない。昭和

から令和へ、生活は便利になったけれど、四季の移り変わりも自然の厳しさも見失ってはいないだろうか？伝統や地域性、個性といった日本の生活文化の大切なエッセンスを思い起こさせてくれるのが、「ハウスランド社」の古民家再生モデル住宅「和の家」『吉木』。築90年の昭和初期の民家を全面的にリノベーションしたこの建物では、古民家ならではの冬の楽しみを体感できる。

ここでは冬になると薪ストーブに火が点る。80坪ほどもある大空間を暖めるために設置されたのは、パームコート・キャストイング社「ド